

第4回安曇野市協働のまちづくり推進基本方針等策定・評価委員会 会議概要

- 1 審議会名 平成27年度第4回安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会
- 2 日 時 平成28年3月24日 午前9時30分から午前11時30分まで
- 3 会 場 本庁舎 3階 「会議室301」
- 4 出席者 中田委員、熊井委員、福島委員、内川委員、大神委員、青柳委員、小河委員、飯沼委員、初谷委員、宮澤委員、花岡委員、宗像委員、遠藤委員
- 5 市側出席者 宮澤地域づくり課長、高山まちづくり推進担当係長、齋藤まちづくり推進担当主事
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 平成28年3月30日

協 議 事 項 等

(会議の概要)

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 審 議
 - (1) 協働計画に基づく個別施策の進捗状況について (資料1)
 - (2) 平成27年度安曇野市協働事業事例集について (資料2)
 - (3) その他
- 4 閉 会

(審議内容の概要)

- 1 開 会 (進行：副会長)
- 2 あいさつ (内川 会長)
- 3 審 議
 - (1) 協働計画に基づく個別施策の進捗状況について
【事務局】(資料1)に基づき、協働計画に基づく個別施策の進捗状況について説明。

【会長】事務局の説明について、ご意見等はいかがでしょう。私からよろしいでしょうか。「地域力向上事業交付金」が平成26年度から28年度まで3年間ということで実施されています。28年度が最後になりますが、これまで申請をしていない区については、多少の余裕をみていくのか、それとも打ち切りとしてしまうのかを教えてください。

【事務局】平成26年度からご活用いただいている団体については、28年度が最終年度となります。また、28年度に初めて申請された団体については、それから3年となります。しかし、各区の事情等により、28年度までに申請の全くない団体については、多少の余裕は検討をしていきたいと考えています。この交付金は、区の力、皆さんで地域づくりを行っていく体制や仕組みづくりの支援なので、是非、活用していただくように促進していきます。

【委員】3月12日に開催された協働事業の報告会ですが、内容が充実しており、評価しております。このような報告会は定期的で開催することで、団体の励みにもなり、また、課題等を踏まえて次年度の改善への意欲にもつながると思います。

【委員】「あらゆる主体の情報発信」について、外国語の情報誌の発行について、「今後検討」となっていますが、市内には外国人が多くいます。早めの対策をした方が良いと思います。

【事務局】現状は、生活に密着したところで、ゴミカレンダーの外国語版を作成しています。これから外国語の対等が必要になってくると思いますので、今後、そういう形ができるようにしていきたいと考えています。

【委員】協働事業提案制度について、本年度は募集をしたところ提案が一つもなかったのですが、26年度に10周年記念事業として募集した時には、いくつか募集がありました。これらがどのような経過・制度の流れになるのか、その辺のことがわかると、これからの協働事業を行っていくうえで、考える視点がわかります。

【事務局】この制度は、市が次年度に実施したい協働事業のテーマを設定し、市民より事業提案をいただきます。提案をいただいた内容は、より良いものに仕上げていくために事前に担当部署と調整をし、事業計画をしっかりと精査し、役割分担を明確にし、市が次年度の予算化をします。以後、3月の議決により、市と協定を締結します。これにより次年度に実施します。この制度は、地域づくり課の所管でしたが、平成27年度に市政施行10周年を迎えることから、この記念事業の実施にあたり、政策部よりこの制度の活用依頼がありました。この時には、協働事業として実施するものと、補助金という形で実施するものなどの種類で申請がありました。協働事業としては8団体より申請があり、政策部で審査等しながら担当部署を決定・調整をしました。ただし、実際のところは対応できる部署が見つからない場合もあり、結果として8つの申請の内、5つの団体に絞られました。本来は、地域づくり課でしっかりとした形で担当部署へ流し、計画を練ります。また、仮の採択により、各部署で予算化をし、それぞれの部署が窓口となり協定を結び、次年度に事業を実施という流れになります。昨年度は、事業提案の募集をしたところ、市民からの提案がありませんでした。次年度につきましては、各部署の各種計画にて、「協働」で事業を進めていくと謳っていますので、各部署に徹底していくように、進めていきます。

【事務局】共催については、その団体と市が、ということになりますし、実行委員会については、元々実行委員会形式で手を挙げていただく場合もあります。また、提案をいただいた中で、市と一緒に実行委員会を設置して行っていくパターンもあります。

【委員】団体から、意欲的に「このような協働の形態で行っていききたい」という申し出があったのか、もしくは、市から協働の形態について提案をしたのでしょうか。

【事務局】10周年記念事業については、基本的には市民の皆さまのやりたいものが前面に出たと思います。しかし、本来は、市民からの提案を尊重をする中で、市が進めていく計画に沿って、適合しているかどうかを精査し、若干修正について調整をさせていただく場合があります。

【委員】教育機関との連携について、「将来を担う子どもたちや学生を育てることを目的とし」とありますが、進捗状況については「大学との連携」と書かれています。事務局では、どのような目的のために大学との連携を進めるということで、進捗状況にコメントを書かれているのか教えてください。

【事務局】近年、大学では、国の補助もあり、地域に密着する形で地域課題を解決していくた

めに、地域と大学が連携されているということが進められています。学生を地域にだしていただきながら、学生の勉強にもなり、また、地域の課題が解決されていく、そのような活動が進められています。大学の制度等を活用させていただきながら、進めさせていただきたいと考えています。

【委員】事業の中に、ボランティア、インターンシップ。協働研究や、授業の一環の中に係わると言う方法があると思います。

【委員】小中学校の義務教育課程で、子育て支援ということで、学校では悩んでいる部分もあり、社会で育てる点で、社会が育っていかなければならないこともあります。教育委員会では、以前より、地域の教育協議会を設置し、様々な関係者により様々な問題を審議しています。しかし、ここで解決できない複雑な問題も出てきているので、学生にも一緒になって課題解決の研究を進めていただけると良いと思いました。教育部門の事例が無いので、ご指摘させていただきました。

【委員】協働事業提案制度について、「次年度は提案をもらうように努める」とありますが、これを具体的にどのように努めるのか教えてください。また、提案に意欲があっても、一般的に行政への申請（特に補助金等）は手続きがわかりにくいので、提出しやすい形式にさせていただきたいです。

【委員】区への加入促進について、特に穂高地域の有明地区は加入率が低いですが、その因果関係について、また、加入が促進されているのか教えてください。

【事務局】区の加入促進は重要な課題です。全体的には区の加入世帯は平均で年間100戸位ずつ増えています。しかし、加入率が上がらない実態があります。加入率は、4月1日時点の住民基本台帳上の世帯数が分母となり、同時点に区の規約に基づき、各区から報告される区加入数が分子になります。27年4月1日現在で77.1%でした。前年比で0.1%増となりました。近年この辺りで推移しています。加入世帯が増えているにもかかわらず、加入率が増加しないのは、近年、介護保険の関係などで、住民基本台帳上の世帯分離をしてしまう世帯が多くなっているため、分母数が増えているのが現状となります。区に入らない理由は千差万別で、地域性もあります。しかし、近年、未加入の皆さんにおいても、例えば災害や様々な分野の中で、一人では生きていけない、心配であるという声も聞いています。未加入の問題は、穂高地域に限ったことではなく、全市的に課題となっているところで、画一的な方策はありません。市の区長会でも皆さんで必死になって進めています。行政だけでなく、区だけでもできません。各区に合った加入促進対策を考え、行っていく必要があると考えています。まずは、区に加入するメリット、デメリットではなく、区とは何か、コミュニティの重要性を前面に出していこうと進めています。私は、メリット、デメリットは人それぞれなので、基本的には無いと考えています。やはり、区は何かということをご皆さんで考えながらやっていくことが大切と考えています。また、市民の皆さんにそのような自覚を高めていただくためにも、現在、自治基本条例（仮称）の制定について、進めています。区長会でも、様々なことを考えながら手を尽くしてきておりますが、現在、コミュニティマニュアルの作成を検討しています。これは、未定ですがお互いで支え合っていく地域社会とはどうあるべきか、最終的に区の重要性になってくると考えています。難しい課題ですが、一歩ずつ進めていきたいと思っています。

【委員】区の問題は見えにくいという印象があります。区の取り組みを事例集に近い形で提示するという事はありますか。

【事務局】26年度に市区長会で「区のマニュアル」を作成しました。この中で、区の加入促進について記載があり、各区の特徴的な事例を盛り込んでいます。全ての市民の目に触れているかは定かではないですが、多くの区民の皆さんの目に触れるように対応していただいている区もあります。行政も、さらにPRが必要と考えています。

【委員】区で実際に行ったこと、またその効果等があると、よりインパクトがあると思います。原因と結果がわかる形で提示があると、より良いと思いました。

【委員】私は教育委員会の委員となっています。区未加入者や、区未加入だけでも様々な市民活動等を行っている方等を含めた、区未加入に関する専門的な協議会を作ってはいかがでしょうか。コアとなる組織体制を作った方が良いのではないかと提言いたします。

【委員】出前講座の件について。出前講座は市の様々なことを周知するために大変良いと思います。進捗状況に、市の担当者による意見交換会を実施したとありますが、どのようなことが実態として問題になっているのでしょうか。これから出前講座の件数は多くなってくると思いますので、継続的に活発な運用のために、どのような工夫が将来においてされていくのか、教えてください。

【事務局】職員の処遇については、夜や土日の申し込みが多いため、代休制度により対応していますが、ほとんど代休が取れずにいるのが現状となり、職員の健康管理等の面でも、検討が必要と考えています。基本的には、市民の皆さんのニーズには、対応させていただくのが当然と考えています。現在、職員課と調整をしています。また、申請後の調整、内容の確認については、実施日の1カ月前までに申請をいただき、担当部署と調整をしていますが、直接担当部署に申請をしている場合や、お互いの行き違いで、申請が済んでいないなど、調整ができていない事例がありましたので、その点について、確認をいたしました。また、半分以上のメニューは実際に活用されていません。これは、仕方ないですが、より市民のニーズに沿ったメニュー内容の検討をするようお願いをしたところです。また、講座はある程度決まった内容になりますが、申請団体ごとに、同じ講座でも深く聞きたい点が異なり、当日になって講師となる担当が困ったことがありました。事前に、具体的な内容を充分に聞くこと必要ですが、地域づくり課で受付をし、日程等を担当課と調整した後、担当課と申請者で具体的な内容についてしっかりと調整することとしました。

(2) 平成27年度安曇野市協働事業事例集について

【会長】事務局より説明をお願いします。

事務局より平成27年度安曇野市協働事業事例集について説明。

【委員】前回指摘した内容について、対応をいただき、ありがとうございました。

【委員】この事例集により、協働であったか、市の主導であったかがわかるかと思います。これを、委員会で話し合うべきではないかと思います。成功例も多くありますが、委員会の中で考えたことを提案した方が良いと思う事例もありました。成功例を出した上で、アドバイスをすることも必要と思います。

【委員】他市と比較し、安曇野市は協働のまちづくりが非常に上手くいっていると感じています。細目に多岐にわたる事業を多面的な角度から展開していることを評価しています。さらに研究をしていきたいと思っています。

【委員】 市民の中から出てきた問題であるかどうか、ということが大変気になります。現状ではあまりないです。一つは、「協働のまちづくり」の意味が市民に徹底されていないことが挙げられます。市民の一番身近な問題を洗い出し、これを一緒に解決したという実績があれば、市民が自らやっという自分ごとの気持ちになると思います。こういうことを多くしていけばよいのではと考えます。

【委員】 協働について、地域ごとに温度差があるように思います。市長と語る会に参加しても、動員をかけないと集まらない地域、また、動員をかけなくても集まる地域があります。産業廃棄物の業者との問題解決がありましたが、これも協働のまちづくりが実った環境問題と考えています。また、松枯れの状況について、自分たちの里山を守るために、住民が関心をもって取り組んでいます。地域ごとに協働のまちづくりが上手くいっているところとっていないところがあると評価しています。

【委員】 今後協働を進めていく中で、体の不自由な方も参加できるような協働の方法も考えていった方がよいのではないかと思います。SAKURAプロジェクトも、参加したかったけれども、参加できなかった方もいましたので、提案しました。

【会長】 皆様から様々な提案をいただきました。今後、事務局でさらに進めていただきたいと思えます。

(3) その他

委員より一言ずつ感想。

4 閉 会